

「土砂災害から身を守ろう」

宮崎県 宮崎市立加納小学校 6年 黒木 勇翔

ぼくが、土砂災害に関する作文を書こうと思ったきっかけは、今年の7月に静岡県熱海市で土石流が発生し、人が死亡したことをニュースで見たからです。元々、土砂災害区域だったとわかっています。

ニュースでは、家々におそってくる土砂やにげまどう人々や消防車をみました。その映像をみて、土砂災害は人の命に関わる危険なものだと分かりました。実際に、約20名の方々がなくなっており、いまだにみつかっていない方もいることが分かっています。

そこで、ぼくはインターネットで自分の住んでいる地域の土砂災害区域を調べてみることにしました。調べて見ると、友達の家や自分の家の近くによく遊ぶ場所、自分の通う学校の裏にも土砂災害区域があることが分かりました。身近にある危険に「ドキッ」とさせられました。中でも池の周りの小高くなっているところの多くが土砂災害区域になっています。その地形をみると、今回、土砂災害にあった静岡県熱海市と規模こそはちがうもののよく似た地形でした。だから、もり上がった土手や切り立った山などは土砂災害が起きやすいので注意が必要です。

そこで、土砂災害の主な前兆現象について調べました。

がけや地面にひび割れが出来る、がけやしゃ面から水がわき出る、地鳴りや山鳴りがする、急に川の水がにごり、流木が混ざるなどの現象が出るのが分かりました。土砂災害にまきこまれないための対策を自分なりに考えてみました。

雨が降ると川を見てみたい気になりますが、川に近づかない。また、テレビで避難指示が出たら大丈夫と思わず避難をする。避難指示が出ていなくても、雨がひどくなりそうなことが事前に分かっていたら、近所の高れい者や体の不自由な方は早めに避難をするように呼びかけたりするなどを対応をしたいと思います。また、呼びかけをスムーズにするためには事前に避難場所の確認をしておくことも必要です。そのために、自治体の避難先を回らん板や地域の防災訓練に積極的に参加して知っておくことも必要です。我が家の避難先は地区交流センターになっています。また、学校帰りなどの家族がそれぞれ別々の場所にいるときなどは、近所の祖父母宅を避難場所に家族内で決めています。避難場所が分かっていると探す方も待っている方も安心感がちがうと思います。安心といえば、防災グッズもです。日ごろから用意、整理しておけばいざというときに役立ちます。我が家では先日びちく米を買いました。また、飲料水も箱で多めにかけており、急な災害でも対応できるようにしています。

最近の日本の天候は、ゲリラごう雨にみまわれることも多く、土砂災害には以前にも増して注意し、気をつけていくことがすごく大切だと思います。先日、NHKのニュースを見ていると防災アプリのお知らせがありました。早速、両親のスマートフォンにダウンロードしてもらいました。日ごろから雨の降り方に注意も出きる上に、旅先での天候等も分かるようになっていました。避難情報もすぐにつかめるので活用していきたいと思います。

災害から身を守るには、日ごろから危ないところに近づかず土砂災害の危険に合わないために自分の身は自分で守っていくことが大切だと思います。また、他の人の命も自分の命も守っていくことと同じように、対応していこうと思います。